

令和元年度 学校評価

本年度の重点目標	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④学校の活性化 ⑤防災・保健・相談活動の充実 ⑥情報社会への対応 ⑦働き方の整備		
項目(担当)	重点事項	具体的方策	留意事項
総務部	広報活動	HPの有効活用、中学生体験入学の実施方法の練り直し	P T A行事を多くHPにアップする。体験入学は時期の変更に伴う内容の見直しを行う。
	防災活動	津波避難訓練・火災避難訓練	津波における避難及び火災による対策を生徒に理解させる。
教務部	基礎学力の向上	魅力ある授業実践 評価方法の研究	アクティブラーニングやICTを取り入れるなどして、生徒が主体的に取り組み深い学びにつながる授業展開を目指す。各種研究活動内容を共有する。
生徒指導部	ネットトラブルの防止	情報モラル講話 ネットパトロールの活用 心のアンケートの見直し・検討	いじめの早期発見と迅速な対応を心掛ける。家庭との連携を密にし、必要に応じて外部機関の協力を得て、組織的に取り組む。
	交通安全意識の向上	交通安全講話 被害や苦情の情報提供(掲示) 交通指導立ち番	危険な行為を自覚させ、取り返しのつかないことになる可能性を想像させることを繰り返し説く。
進路指導部	主体的に進路実現に向かう力の育成	大学講座や社会人講師による講演が自らの興味や適性を考える機会になるよう工夫する。補習等の効果的な実践。	3年間の進路ガイダンスを包括的に見据えて、学年や時期に応じたより効果的な進路ガイダンスを計画する。学習環境を整備する。
保健部	生徒の健康増進	健康観察や自己管理能力の向上	健康観察、個別の指導計画、保健室来室、S C相談者の状況を共有し、生徒指導に生かす。
	環境美化・安全の推進	生徒美化委員会の活動の活性化 安全点検の実施	美化委員による清掃点検を実施し、生徒の環境美化と安全に対する意識を高めていく。
生徒会部	部活動の活性化	学年会、部活動顧問との連携 部活動における安全の確保	第1学年と部顧問との情報交換を密にする。下校時刻、環境の整備など、安全面で配慮する。
	生徒会活動の充実	生徒会顧問教員、生徒会役員、常任委員会の、三者間の協力	教員は、委員会生徒の自主的な発案を促進できるような組織作り、雰囲気作りをサポートする。
情報管理部	図書館業務および情報処理システムのマニュアル化	各種業務をマニュアル化する	担当者が交代しても業務の質が大きく変わらないように、最低限のことをマニュアル化する。ただし、担当者によるカラーも大切であるので、そのことも考慮する。
3年生	自覚と責任	最上級生としての役割の自覚 身だしなみ指導	保護者との連絡を密に取りながら身だしなみを整えることの大切さを説く。
	自主性と協調性	学校行事を軸としたリーダーシップの育成	仲間と協力し、最上級生として学校行事等でリーダーシップがとれるよう指導する。
	進路目標の実現	進路実現の支援	掲げた目標に到達できるよう生徒の意識を喚起し、生徒の努力を促し支援してゆく。
2年生	自覚と責任	集団の中での役割の自覚 遅刻の防止	正しい身だしなみの指導、遅刻防止指導の充実。保護者との連絡を密にする。
	学力の向上	授業への前向きな取り組み 個別学習指導	生徒の学習活動が深まるよう授業を工夫する。進路実現を意識させ、基礎学力の向上を図る。
	進路目標の設定	L TやK T、個人面談の活用	進路ガイダンスの充実を図り、それぞれの目標が具体化できる指導をする。
1年生	生活や行動の自立	基本的生活習慣の確立 部活動・ボランティア活動の推奨	繰り返し声かけをし、遅刻防止、正しい身なりを促す。自主活動への積極的な参加を促す。
	基礎学力の向上	基礎基本の定着、授業規律の向上、家庭学習の充実	基礎内容の定着を図る。授業に集中できる雰囲気作り、環境整備を心がける。課題提出を徹底する。
	進路研究	多様な進路研究と職業観の育成、類型・コースの選択	L TやK T、個人面談を通して、自己省察、自己把握を啓発し、進路適性を考えさせる。
生活文化科	キャリア教育の充実	進路について目標設定と進路実現へのキャリア教育の確立	日常に加え、インターンシップや外部講師による授業等で主体的に考えさせ、実践させる。
	基礎基本の徹底と向上	検定などの基礎基本の徹底と、社会人講師の導入などによる教科指導の充実を図る。	基礎基本を習得させ、さらに主体的に取り組める授業展開を工夫する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①学習指導における授業の充実について ②進路指導における進路意識の向上について ③生徒指導におけるマナーの向上について ④生徒会・学校行事の充実について		